

みんな  
で  
平和への約束を…。



広島平和記念式典派遣事業  
実施結果報告書

2008年8月5日(火)～7日(木)



# 目次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	3
II	研修レポート・・・・・・・・・・	4
	① 三日間の日程	
	② 研修の記録	
	③ 学びの発信	
III	広島平和記念式典派遣事業行程表・・・・・・・・・・	14
IV	派遣事業の概要など・・・・・・・・・・	16
	① 派遣事業の概要	
	② 派遣事業参加中の役割分担	
	③ 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開	
V	資料・・・・・・・・・・	18
	○ 非核平和都市宣言	

## 広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 小林 清

燕市は、平成18年12月25日「非核平和都市宣言」を行いました。非核平和は私たち人類の普遍的願いです。平和を愛する世界の人々とともに核兵器の廃絶と非核三原則を強く世界に訴え、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、非核平和都市として宣言したものです。

日本は、世界で唯一の被爆国として、二度とあってはならない原子爆弾の恐ろしさを体験しています。平和の尊さと戦争の悲惨さを体験した私たちは、二度と戦争を繰り返してはなりません。人類が生きるために最も大切な「平和」に対する思いを真剣に世界に向けて訴えていく必要があります。

そこで、燕市では非核平和の推進及び平和学習活動の一環として広島平和記念式典派遣事業を実施することといたしました。

この事業は、広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式をはじめとする様々な催しへの参加、施設見学や原爆体験者の話を聞くことにより、次代を担う中学生から国際的視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解を深めていただき、「命の尊さ」や「平和を愛する心」を学んでいただくために実施するものです。

燕市立の5つの中学校より代表各1名の生徒を広島へ派遣するとともに、全校の生徒からは、平和の祈りを込めて、また戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りして千羽鶴を折り、これを「原爆の子の像」に捧げました。

生徒たちは、平和記念式典への出席、広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学、被爆体験講話の受講、灯篭流しへの参加などにより、「命の尊さ」や「平和を愛する心」について学んだことと思います。

今後は、各学校で、全生徒への報告会その他の事後研修を実施していただき、各学校の代表者が学んだことを、各学校の生徒さんたちみんなで共有していただけるものと思います。

今回の事業実施に際しまして多くの方々からご協力いただきましたことにつきまして心より感謝申し上げます。

# 広島平和記念式典派遣事業

## 三日間の日程

### 1日目 8月5日(火)

- ◇ 出発式(吉田庁舎) 7:00~ 7:20
- ◇ 移動(燕三条から広島) 8:10~14:05
- ◇ 木松旅館 14:30~15:00
- ◇ 平和記念公園 15:30~16:30  
千羽鶴奉納  
公園内見学
- ◇ 木松旅館 17:30~  
夕食 ミーティング



### 2日目 8月6日(水)

- ◇ 木松旅館 ~6:30
- ◇ 広島平和記念式典参加 7:00~ 8:45  
原爆死没者名簿奉納  
広島市長あいさつ 遺族代表あいさつ 広島市議会議長あいさつ  
献花 黙とう(平和の鐘) 平和の誓い(子ども代表)
- ◇ 木松旅館 10:00~10:45
- ◇ 平和記念資料館見学 11:30~12:20
- ◇ 昼食(本場広島風お好み焼き)
- ◇ 広島市内視察 13:20~16:00  
袋町小学校平和資料館 旧日本銀行広島支店 福屋百貨店  
島外科病院(爆心地) 旧帝国銀行広島支店  
中央公園中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室) 広島城 江波山気象館
- ◇ 燈籠流し 19:30~20:10
- ◇ 木松旅館 20:30~



### 3日目 8月7日(木)

- ◇ 被爆証言講話受講(木松旅館) 8:00~ 9:00
- ◇ 広島駅自由行動 10:30~11:30
- ◇ 移動(広島から燕三条) 11:46~18:03
- ◇ 解散(燕三条駅) 18:10



(文責:齊藤雄太、神田偉成)

## 平和記念公園

平和記念公園では、各自自由行動で見学しました。その平和記念公園には、慰霊碑や記念碑など、広島原爆に関係しているものがたくさんありました。その中に、平和の泉というものがありました。平和の泉とは、高さ1mの石の壁に陶製のライオンがついていて、そのライオンからは絶えることなく水が出ています。なぜ、水が出ているのだろうと思い、資料を見てみました。そこには、「流れる水は、苦しみの中に与えられてはならない水を求めて、もだえ苦しんだ人々の思いをいつまでも伝え続けています。」と書かれていました。



この他の建物もこういった深い理由で生き残った人が造ったようです。ただ生き残っただけで終わりではなく、平和のためにいろいろなことを行っていることを知り、そういう方々を尊敬します。

(文責:藤澤毬衣)



## 平和記念式典 広島平和記念資料館

2日目の平和記念式典には、原爆を落とした国アメリカは今回も欠席でした。しかし、核を保有している中国は初めて出席しました。少しずつですが、各自に非核の意識が広がっているのだなと思いました。

平和記念式典は平和宣言から始まりま



花をたむ

ける人の行列ができました。

平和記念資料館には、被爆者の遺品が多数展示してありました。原爆の熱によって背中を火傷した人の写真やグニャグニャになった鉄骨などがありました。原爆のすさまじさを全身で感じました。  
(文責:赤塚匠)



## 広島市内視察

広島ならではの好み焼きを「へんくつや」で食べた後は、市内視察をしました。被爆した小学校や古い銀行は現在でも残っていました。けれども「広島市」はかつて原爆の悲劇が起こった事を微塵も感じさせない程、活力に満ちていました。それは広島城の天守閣から望む景色や、「江波山気象館」と言う原爆の爪痕を残す建物の中で、元気に遊ぶ子供たちからも感じられました。

市内視察の中で、最も印象深かったのは「中国軍管区司令部跡」でした。天井は低く、冷やかな空間の中で、かつてどれくらいの人がここに入出入りしたのだろう？ 彼らが抱えていたであろう不安も焦りも、私には想像できません。私は防空壕と言うものに入るのは初めてでした。



▲中国軍管区司令部跡

夜の灯籠流しは、感動的でした。



宵闇の中、一帯に鎮魂歌が響き渡り、一筋の川を柔らかな明かりが流れてゆきます。それを俯瞰する原爆ドームと平和を希求する祈りの人々——これを見て、原爆や諸々の兵器の必要性を唱える人は居ないと思います。63年前の同日、水を求めて川に流されていった方々と同じように、灯籠は川を下ってゆきます。

ある意味の皮肉です。けれども灯籠に託された願いが、世界平和に繋がればいいと思いました。

広島市内には外国人も多数訪れていました。彼らはこのヒロシマを見てどう思うのだろうか？ 当時は敵地として認識していたこの地を、この地の今を、どう思うのだろうか？ 少しでも平和や命を尊ぶ気持ちが高まってくれる事を望むばかりです。

全体を通して、広島には原爆の痕が現在も沢山残っており、それらは全て生々しかったです。けれども血腥い犠牲の繰り返しの上に、今の日本の平和がある事は忘れてはいけません。少しでも平和な世界に近付けるように、私たち次の世代が、尽力していきたいと感じました。

(文責:明道里穂)



## 被爆証言講話の受講

この日は 77 歳になる体験者の方にお話をいただきました。

昔は、戦争が始まると国民は喜び、そして国のためになりたいと思ったそうです。ですが、戦争のときは言論の自由はなく、食料もなく、みんながたくさん我慢をしてきました。そんな中、1944 年頃から空襲が本格的になってきました。大阪では 28 回ほどあり、3月10日には2時間にもおよびました。そして、原爆を落とす場所は、

- ①軍土である
- ②地形が条件にあてはまる
- ③連合国軍の捕虜収容所がない

この三つがあてはまることになり、第一目標が広島、第二目標が小倉、第三目標が長崎ということになりました。

中学 1,2 年生の子は道に並んで点呼をとっているときでした。みんな川に飛び込みました。ですが家に帰りたくなくなり土手にあがろうとします。その時に爪がとれて川に落ちてしまう人が多かったそうです。また、火傷をした人に水を飲ませるとショック死をしてしまったそうです。水を飲まなかった人でも我慢できず自分の血を飲んだ人もいたそうです。

お話をしてくださった方は爆心地から 2.3km 離れた場所にいました。爆発した時は体が浮き、腹から何か出るような感じだったと教えてくださいました。家に帰る途中の川では、毛のない馬が死んでいたそうです。

こんなにひどかったことを話してくださって本当に感謝しています。自分もたくさんの人に伝えられるよう努力していきたいです。  
(文責:藤澤毬衣)





## 学びの発信 ～広島研修で学んだこと～

燕中学校 明道 里穂



広島市内は3日間とも真夏を感じる太陽で、その下を忙しく蝉時雨が響いていた。63年前の同日も同じように暑い日だったのだろう。けれども一瞬にして、全てが吹き飛んだ——原爆が投下されたのだ。

忽然と消え去った街。当時の日本において重要な軍都であった広島は、一瞬にして廃墟と化した。幾つもの命が掻き消され、辺りに屍が転がった。更に、「被爆した方々の容貌は“人”ではなかった」と被爆体験者の方は語る。

全身が焼けただれた人々は、水を求めて川へ飛び込んだと言う。けれども丁度 8:15 というのは満潮時であり、川へ入水した人は、そのまま這い上がれずに力尽き、流されていった。また、奇跡的に生還した人も、後遺症や原爆孤児としての苦しい生活を強いられた。

道路を建設中の小学生も、勤労に励む女学生も、胎内に子を抱える妊婦ですら「新兵器の実験台」としてあの世に屠られた。たった一瞬の出来事だ。その僅かな一時に刻んだ原爆の傷跡は、現在の広島にも残っている。

影の付いた壁、丸焦げの三輪車、溶けた一升瓶——目前にあるそれらが、漠然としか“センソウ”を感じられない私に飛び込んでくる。人も物も、たった一発の“幼い少年”によって、破壊されたのだ。新潟も原爆投下の候補地だった事を考えると、身震いせずには居られない。

平和記念式典で語られる、挨拶や誓いは飾りではない。本当にこの悲劇を繰り返してはいけないのだ。もう実際に戦争を知っている人は、次第に社会の隅へと追いやられている。戦争を知らず、歴史に学ばない世代が社会を動かし、そして惨事が繰り返される……そんな事はもう止めよう。

広島で学んだ事、肌で感じた事を一生涯忘れる事なく、反戦主義の、平和主義の世界を作る事の必要性を強く感じた。



## 学びの発信 ～広島に行って感じたこと～

小池中学校 神田 偉成



ぼくは、広島で多くのことを見て、聞いてきました。

広島に着いて、最初に見たものは原爆ドームです。建物はとてもボロボロで原子爆弾がどれ程威力のあるものかということをお話していました。その後、原爆の子の像の周りで、平和を願って千羽鶴を奉納しました。県外や外国からも多くの人々が平和を願い、様々な千羽鶴を持ってきました。

二日目には平和記念式典に出席しました。これも県外や外国からも多くの人々が来ていてあまりの人の多さに驚きました。8時15分になると同時に平和の鐘と共に黙とうが始まり、会場全体が静まって平和で核のない世界を願いました。

三日目は、被爆者の体験談を聞きました。被爆の瞬間の光景や被爆後の広島

の町の様子など普段は聞くことのできない貴重なことを聞かせていただきました。

ぼくは、この三日間を通して、核というものはこの世界にはあってはならないものだとは再認識しました。それを伝えるものが広島にはたくさんありました。たった一つで多くの生命を奪ってしまう原子爆弾が一日でも早くなくなることを願っています。



## 学びの発信 ～広島派遣で感じたこと～

燕北中学校 斉藤 雄太

今回ぼくは、普段体験することができない広島平和記念式典に参加することができました。当日は気温が上がり少しくらぐらしてしまいました。

式典が終わった後、近くにある平和記念資料館に行きました。ぼくは、ここで多くのことを学んだ気がします。まず、原爆で被爆した人の姿です。館内には被爆した



人のレプリカや被爆した三輪車、他にもいろいろなものが展示されていました。この原子爆弾がどれほどの威力かということが分かりました。

次に分かったことは後遺症についてです。小学生の頃、はだしのゲンという漫画で見て、少し怖いなと感じていたけど、他にもいろいろな後遺症があることに気付きました。それもかなり怖いものでした。

今回式典に参加して、あらためて原爆や核は怖いものだと思います。世界から核がなくなる日がくればいいなと思いました。



## 学びの発信 ～広島に行って感じたこと～

吉田中学校 赤塚 匠

ぼくは、広島平和記念式典派遣事業に参加しました。

広島に着いて、まず、みんなで作った千羽鶴を奉納しました。いろいろな国、団体の人たちがそれぞれの千羽鶴を持ってきていました。12箇所のブース全てが埋まっていた。それほど多くの方が平和を願っているのだと思いました。

原爆は兵隊だけでなく、子どもやお年寄り、たくさんの方が犠牲になったことに戦争の悲しさ、恐ろしさを感じずにはいられませんでした。

平和記念式典当日、ぼくは式典の間、この戦争で失われた命、悲しみ、苦しみはたくさんあるけれど、何一つよかったことなんてなかったことではないか、一体この戦争は何だったのか、この戦争に限らず戦争をする意味は何なのかとずっと考えていました。

人の命を、幸せを奪ってしまう戦争は繰り返してはいけないと強く思いました。



ぼくは、この研修で学んだこと感じたことをみんなに伝えていきます。



## 学びの発信 ～広島での三日間を終えて～

分水中学校 藤澤 毬衣



今回の派遣事業で原爆の恐ろしさなどたくさんのことを学んできました。

私はもともと戦争のことに関心がありました。ですが、実際に行ってみると広島は資料だけでは伝わらない、言葉では表現できないようなとても重みのある空間というふうに感じました。

戦争中は食べるものもなく、雑草も奪い合うほどだったそう

です。また、原爆で被爆した人の中には皮膚がたれさがってしまった人もいたそうです。

この話や今回の体験を通して、私たちが今平和に暮らしていることは当たり前ではなく、63年という長い時間の中で平和を守ろうとたくさんの方が働き掛けてくれたからということに気付かされました。

そして、自分も今度は、広島で起きたことを伝える側になりました。より多くの人に伝えるように努力をしていきたいと思います。また、今までの人のように平和のために働きかけていきたいです。





広島平和記念式典派遣事業行程表  
8月6日(水)

木松旅館	西広島	原爆ドーム前	平和記念公園	平和記念資料館	平和記念公園
6:30	6:35	7:00	7:10	9:00	10:15
6:45	6:45	7:05	8:45	10:15	11:00
			○広島平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)		○祈りの泉 ○風の中の母子像 ○平和の塔 ○アト・ユル博士記念碑 ○被爆アオギリ ○峠三吉詩碑 ○平和祈念館 ○レストハウス ○勤員学徒慰霊塔 ○原爆ドーム
原爆ドーム前	西広島	木松旅館	西広島	原爆ドーム前	市内で昼食
11:05	11:30	11:35	12:05	12:30	12:40
11:15	11:30	12:00	12:15	12:30	13:20
市内視察	広島城	江波山気象館	木松旅館	西広島	原爆ドーム前
13:20	14:00	15:40	16:20	18:25	18:50
14:00	15:20	16:00	18:20	18:35	18:50
●袋町小学校平和資料館 ●旧日本銀行広島支店 ●福屋百貨店 ●本川小学校平和資料館 ●爆心地(島外科病院) ●旧帝国銀行広島支店 ●旧大林組広島支店	○中央公園中国軍管区司令部跡(旧防空作戦室) →14:00~14:40 ○天守閣				
平和記念公園	原爆ドーム前	西広島	木松旅館		
18:55	19:50	20:10	20:25	20:30	
○とうろう流し					

## 派遣事業の概要など

### 1 派遣事業の概要

派遣事業の概要は次のとおりです。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意してください。

#### ① 目的

非核平和宣言推進事業及び平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点をもって命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成することを目的とする。

#### ② 日程

平成20年8月5日(火)から 平成20年8月7日(木)まで

#### ③ 主な活動内容

- (1) 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式への参列
- (2) 広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- (3) 原爆の子の像に各校で作成した千羽鶴を奉納
- (4) 被爆証言講話の受講
- (5) 灯籠流しへの参加
- (6) 事後研修（8月下旬から9月にかけて事後研修として報告会を実施など）

#### ④ 行程

（別紙広島平和記念式典派遣事業行程表）

集合：吉田庁舎応接室 午前7時

#### ⑤ 参加者名簿

氏名	性別	学校名	学年	備考
明 道 里 穂	女	燕中学校	3	
神 田 偉 成	男	小池中学校	3	
斉 藤 雄 太	男	燕北中学校	3	
赤 塚 匠	男	吉田中学校	3	
藤 澤 毬 衣	女	分水中学校	3	



## 2 派遣事業参加中の役割分担

自主的な学習活動の一環として、参加者の皆さんから、次の通り役割分担をしていただきます。

役割分担の内容		人数	氏名
(1)	出発式代表あいさつ(参加に当たっての心構え)	1名	
(2)	被爆証言講話講師へのお礼のことば	1名	
(3)	ミーティング司会	1名	
(4)	2日目昼食場所の選定(意見とりまとめ)	1名	
(5)	報告書とりまとめ(執筆分担したもののとりまとめ)	1名	

## 3 話し合いによる、事業の目的に沿った学習活動の展開

「国際的な視点・命の尊厳・平和の尊さ」を学び、さらに、他の生徒たちへ伝えるため、「研修の記録」、「学びの記録」、「学びの発信」という3ステップで学習活動を進めます。

### ① 参加前学習(研修の記録)

- (1) 行程及び資料の確認
- (2) 広島原爆投下の歴史的背景
- (3) 第二次世界大戦の戦時下の生活
- (4) 原子爆弾の被害・惨状
- (5) 今、世界のどこかでおきている戦争
- (6) 被爆体験者へ聞いてみたいことは何か

### ② 参加中学習(学びの記録)

- (1) 平和記念公園
- (2) 平和記念資料館
- (3) 市内視察(被爆建物その他資料の見学)
- (4) 被爆証言講話
- (5) 広島平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)

### ③ 参加後報告(学びの発信)

参加後に報告として、次の通りとりまとめ、提出してください。

項目	説明	担当者	備考
(1)	研修の記録	期間中の主な行程についてまとめる	執筆分担による A4一枚程度 (写真2枚)
(2)	学びの記録	見聞きして学んだことをまとめる	執筆分担による A4一枚程度 (写真数枚)
(3)	学びの発信	参加して得たものをまとめ、発信する	各参加者全員 400字程度 (写真1枚)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市



【編集後記】

昭和二十年八月六日、広島に原子爆弾が投下され、多くの尊い命が失われてしまいました。まだ六十数年前のことです。

広島で目にした原爆投下の傷跡は生々しく、生徒たちは皆、戦争の怖さ、命の尊さを実感したと思います。また、平和記念式典での、多くの市民が会場を取り囲むようにして午前八時十五分、祈りを捧げた光景には、広島の人たちの平和を願う切実な思いを感じたことでしょう。

「戦争の恐ろしい記憶を忘れない。戦争を知らないわたしたちが、たくさんの人に伝えていかなければならない。」生徒たちは決意しました。

今後、一人でも多くの生徒が原爆や戦争の事実を学び、語り継いでいくことを願ってやみません。



広島平和記念式典派遣事業  
実施結果報告書 2008/8/5(火)~7(木)

---

燕市●総務部総務課●教育委員会学校教育課